

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◇◆◇ No.0644 ◇◆◇

21/07/14

【 最近の金融市場で取り沙汰される話題 2 選 】

史上最高値更新を再びたどるなど、依然として活発な米株市場を横目に為替市場はいまひとつパツとしない。ただ、それでも 2 日にドル/円が 111.66 円を示現し、年初来高値を更新したことは数少ない明るい材料だ。

そうしたなか、ここ最近の為替市場で個人的に気になる「噂」などを幾つか耳にしている。以下では取材を踏まえた 2 つの話題をレポートしてみたい。

<< ロシアのドル資産離れ、さらに拡大へ >>

筆者は 5 月 19 日の当レポートで、「世界の中銀の外貨準備高におけるドル離れ」を報じている。そのなか代表的な事例として取り上げたのが、公式データで外貨準備の比率を公表しているロシアであった。詳細はバックナンバーを是非とも参考にさせていただきたい。

ともかく、ロシア中銀によるドル資産離れがデータから判明するなか、ロシア連邦財務省は新たに声明を発表し、同国の政府系ファンド「国民福祉基金」中のドル保有をゼロにし、それらを他通貨に切り替える旨を明らかにした。

ちなみに、同ファンドの保有資産は約 1860 億ドル。うち、35%にあたる 650 億ドルを米ドルで保有しているもようだ。つまり 650 億ドル分の米ドル資産を、今後ゼロへとシフトすることになる。

改めて指摘するまでもなく、ロシアは米国とサイバーテロ問題などをめぐりたびたび対立を深めており、今回の発表も対米牽制、「ブラフ(脅し)」といった側面もちろん否定できない。したがって、「口先だけ」といった楽観的な見方も一部で聞かれているが、同様のニュアンスとして、以前からシルアノフ財務相が「ユーロと人民元、ゴールドに資金を振り向ける計画」などと述べており、昨日今日決定した話ではないところはやはり気掛かりだ。かなり煮詰まったというか、むしろ非常に現実味のある話なのかもしれない。

いずれにしても、仮に事実とすれば、為替市場においてロシアから大量のドル売りオーダーが今後観測されても不思議はなく、その対価として買われるものはまずユーロになるだろう。

本稿執筆時、ユーロ/ドルは 1.18ドル前後のレベルで低迷しているが、実は急反発に向けた底練り商状なのかもしれない。年末に向けた為替市場の主役としてユーロ/ドルの存在が急浮上する可能性もある。

<< イエレン米財務長官、FRB議長に復帰!? >>

「FRB幹部人事」ーについては、6 月 9 日の当レポートで一度レポートしている。

こちら、詳細についてはバックナンバーを参照していただきたいが、要点のひとつだけを取り上げると、今年から来年にかけてパウエル氏など正副 3 議長すべてが任期切れになり、その後継者などが金融市場でもジワリと取り沙汰されるようになってきた。

ちなみに、パウエル議長の任期が切れるのは来年 2 月 5 日と順序的には 2 番目。まだ半年程度の時間的猶予を残していることもあり、後継者人事などはそれほど表立って話題になっていない。しかし、それでもNYなどを取材した限り、「再選」見通しが取り敢えずは圧倒的か。それを追う格好で、「ブレynaードFRB理事が昇格する」との予想となっている。

そんなこんなで、次期FRB議長人事は、基本的に 2 強状態ともいえるなか、ある種の「サプライズ」として「イエレン財務長官の戻り」も一部で取り沙汰されているようだ。

筆者が調べた限り、今回のイエレン氏のように「FRB議長から財務長官」は過去にも観測されているが、その逆である「財務長官からFRB議長」に転身した人物はこれまでにない。2013 年のオバマ政権下、バーナンキFRB議長(当時)の後任としてサマーズ元財務長官の名前が候補として挙げたことがあったものの、「大統領の経済運営やFRBに悪影響を及ぼす恐れがある」との懸念から、選考候補からの辞退を自身で決断している。今回イエレン氏が出戻れば初のケースとなるものの、果たしてFRB議長へと「鞍替え」をするメリットは彼女にあるのだろうか? その可能性は極めて低いと考えているが、前記したようにま

だ半年程度の時間を残している。要注意材料として頭の片隅にでもとどめておいて損はないのかもしれない。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter